



運動会で育つ三つの力

副校長 杉本 英嗣

夏休みが終わり、今年の9月は少し涼しく、雨が多い月となりました。9月から10月にかけては、運動会に向けた練習や準備が本格化します。暑さが少しずつ和らぎ、空が高く澄みわたる季節となる中で、子どもたちは運動会という大きな目標に向かい、一步ずつ成長していきます。運動会は、競技や演技の成果を発表する場であると同時に、子どもたちの心や人間関係を大きく育てる教育活動です。

運動会では、特に3つの力が育つと考えます。一つ目は「協同する力」です。徒競走や表現運動は一人で取り組むように見えますが、実際には多くの仲間との関わりの中で成り立っています。団体競技では仲間と作戦を考え、応援では心をつなげて声を届けます。うまくいかないときには励まし合い、成功したときには喜びを分かち合います。こうした経験を通して、子どもたちは「自分だけが頑張ればよいのではなく、みんなで力を合わせることが大切なのだ」と実感していきます。

二つ目は、「やりぬく力」です。運動会の練習は、楽しいことばかりではありません。思うようにできず悔しい思いをしたり、何度も練習を繰り返したりすることがあります。それでも目標に向かって努力を続けることで、できなかったことができるようになり、自分自身の成長を実感します。本番での成功だけでなく、そこに至るまでの過程こそが大切です。困難に向き合い、最後まであきらめずに挑戦する経験は、今後の学習や生活の中でも子どもたちを支える大きな力となることでしょう。

三つ目は、「伝える力」です。運動会では、演技を通して思いを表現したり、仲間へ声をかけたり、応援の気持ちを届けたりする場面がたくさんあります。自分の考えや思いを相手に伝えること、そして相手の思いを受け止めることは、人と関わりながら生きていくうえで欠かせない力です。子どもたちは運動会の活動を通して、言葉や表情、動きなどさまざまな方法で思いを伝え合うことを学んでいきます。

本校の学校教育目標は、「ひと・自然・まちとふれ合いながら自分を高める中川の子」です。運動会はまさに、この目標につながる行事です。仲間という「ひと」と関わりながら「協同する力」を伸ばし、自分の課題に向き合いながら「やりぬく力」を育み、周囲と心を通わせながら「伝える力」を磨いていきます。その積み重ねによって、子どもたちは一人ひとりが自分を高め、より大きく成長していくのです。運動会当日には、競技や演技の結果だけでなく、そこに至るまでの子どもたちの努力や成長にもぜひ目を向けていただければと思います。

中川小学校のホームページで、日々の学校の様子を書き始めました。
ホームページの「学校日記」からご覧いただくと幸いです。

学校ホームページはこちらからご覧いただけます ➡

